

## 再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課  
担当課長名：中村 健一

事業名	連続立体交差事業 JR武豊線（半田駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	愛知県	
起終点	自：半田市本町1丁目 至：半田市神明町3丁目	延長	2.6 km			
事業概要						
<p>本事業は、半田市の中心市街地を南北に縦断する東海旅客鉄道武豊線約2.6kmを連続的に高架化して、9箇所の踏切を除却することにより、道路交通の円滑化を図るとともに、鉄道により分断された地域を一体化して、良好な市街地を形成するものである。</p>						
H28年度事業化		H27年度都市計画決定		H29年度用地着手		
R2年度工事着手						
全体事業費	183億円	事業進捗率	10%	供用済延長	0km	
計画交通量	103,989台時/日（踏切交通遮断量）					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 128 / 162億円 事業費：128/162億円 維持管理費：0.05/0.05億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 213 / 213億円 走行時間短縮便益：193 / 193億円 走行経費減少便益：17 / 17億円 交通事故減少便益：2.5 / 2.5億円	基準年 令和2年		
感度分析の結果						
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.5(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.5~1.8(交通量±10%)                  事業費：B/C=1.2~1.5(事業費±10%) 事業費：B/C=1.5~1.9(事業費±10%)                  事業期間：B/C=1.2~1.4(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.6~1.8(事業期間±20%)</p>						
事業の効果等						
<p>① 踏切遮断の解消                  (都)前明山中蓮線 踏切渋滞長：最大350m（主要渋滞箇所(踏切)指定踏切) 踏切渋滞の解消                  (都)荒子線 踏切渋滞長：最大250m                  (都)土井山新居線 踏切渋滞長：最大180m（主要渋滞箇所(踏切)指定踏切) 踏切渋滞の解消</p> <p>② 踏切事故の解消</p> <p>③ 魅力ある市街地の形成                  区画整理事業等や街路事業と一体となってまちづくりを進めている</p> <p>④ 歩行者・自転車の利便性・安全性の向上</p>						
関係する地方公共団体等の意見						
<p>【半田連続立体交差事業促進期成同盟会（R2.11.19）】                  【愛知県鉄道立体交差事業促進協議会（R2.11.26）】                  ・連続立体交差事業の計画的な事業促進が図られるよう要望する。</p>						
事業評価監視委員会の意見						
事業継続（R2.12.21）						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
大きな変動要因はない。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
<p>・【進捗率（R2.12.21時点）】                  事業費ベース：10%（18億円/183億円）</p> <p>・【用地進捗】                  面積ベース：99%                  金額ベース：47%</p>						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
・全体の事業進捗は順調であり、計画どおり事業を進めることが可能と考えられる。						
施設の構造や工法の変更等						
・地質調査結果に基づく設計業務の追加及び鉄道高架橋の基礎杭の長さの変更。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	<p>・鉄道を連続的に高架化して、踏切を除却することにより、道路交通の円滑化と分断された地域の一体化による良好な市街地形成に大きく寄与することが期待されるため。</p>					

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。